ボーリング柱状図

調　査　名　香椎(香椎駅前1丁目)地区下水道築造工事 土質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo.										

シートNo.

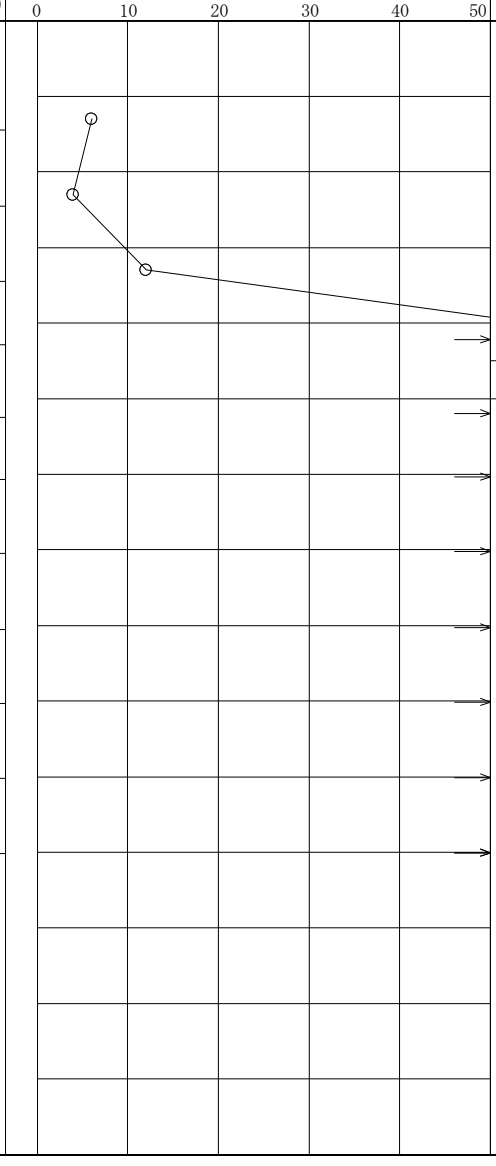
ボーリング名	No.1	調査位置	福岡市東区香椎駅前1丁目 地内					北緯	33° 29' 29.4"
発注機関	福岡市 道路下水道局 建設部 東部下水道課			調査期間	平成 28年 7月 27日 ～ 28年 8月 1日			東経	130° 26' 35.7"
調査業者名	株式会社 日本ボーリング 電話 (092-404-7575)	主任技術者	平野 徹	担当技術者	三原 昌明	コア鑑定者	三原 昌明	ボーリング責任者	末石 幸晴
孔口標高	4.15m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	
総掘進長	11.00m								
試錐機	吉田鉄工所製YBM-05型	ハンマー落下用具	半自動落下式						
エンジン	ヤンマー NFD-8型	ポンプ	吉田鉄工所製GP-40型						

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	3.65	0.50	0.50		埋土・礫質土	淡灰～灰			コンクリート主体で，鉄筋を含む。コンクリート間には礫混じり砂質土。	7/29 1.00
1	3.15	0.50	1.00		埋土・砂質土	淡褐灰			シルト分を多含した細～中粒砂。φ2～30mm大の亜角礫が多く混入。	
2	2.15	1.00	2.00		シルト混じり砂	黄褐			砂は細～粗粒砂。シルト分を部分的に多く含有し，φ2～10mm大の亜角礫を混入。含水量はやや多い。	
3	0.90	1.25	3.25		礫混じり砂質粘土	灰～淡青灰			粘性・含水量中程度。微～中粒砂とφ2～30mm(φmax60mm)大の亜角礫を多く混入。局部的に粗粒分(礫+砂)が優勢で砂質土状。	
4	0.15	0.75	4.00		強風化砂質頁岩・粘性土状	淡青灰～青灰			砂質頁岩の強風化層。固結土状で採取されるが，風化著しくハンマー軽打にて潰せ粉状。	
5					風化砂岩・軟岩	灰～黄褐～淡灰～淡青灰～暗灰			砂岩の風化層。細粒砂岩主体。深度5.25mまでは，土棒状コア(強固結土状)～礫質土状で採取され，硬さはハンマー軽打にて崩せる程度。以深はコア長5～15cm程度(max25cm)の柱状コア～岩片状コア主体で採取。硬さはハンマー中～強打にて割れる程度。深度8.0mまでは亀裂(斜～縦)多く，5cm程度の短柱状コア～岩片状コアで，亀裂面は酸化褐色化する。深度6.6～8.0m間は粗粒砂岩からなり，φ2～5mm大の礫を点在。以深には薄層頁岩を縞状に挟む。	
6										
7										
8										
9										
10										
11	-6.85	7.00	11.00							
12										
13										
14										

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	2	2	2	6/30
1.45 / 2.15	1	1	2	4/30
2.45 / 3.15	2	3	7	12/30
3.45 / 4.15	32	18/4		50/14
4.29 / 5.15	50			50/10
5.25 / 6.00	50/7			50/7
6.07 / 7.00	50/5			50/5
7.05 / 8.00	50/5			50/5
8.05 / 9.00	50/3			50/3
9.03 / 10.00	50/2			50/2
10.02 / 11.00	50/2			50/2
11.02				

N 値



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
4.50	現場透水試験 k=8.34E-08(m/s)
5.00	

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
4.50	C1-1	㊀
5.00		

室内試験(重含水比 粒度 一軸)

掘進月日: 7/26, 7/27, 7/28, 7/29

・本資料は、工事等により現況と整合しない場合があり、現在の位置関係や地質状況などを特定するものではありません。
・本資料は、参考データとして利用し、現在の地質状況は、再度ボーリングを行う等して確認をお願いします。